

2024年度（令和6年度） 事業報告書



学校法人シモゾノ学園

目 次

I. 学校法人の概要

- I-1. 学校法人の基本情報 について
- I-2. 教育理念・教育方針・3つのポリシー(目標 及び 計画) について
- I-3. 学校法人シモゾノ学園 及び 本学園に関わる事項の沿革 について
- I-4. 本学園が設置する学校・学科(学校基本情報) について
- I-5. 役員等 について
- I-6. 教職員等 について
- I-7. 学校運営体制 について

II. 事業の概要

- II-1. 2024年度(令和6年度) 事業概要報告 について
- II-2. 学生募集計画 について
- II-3. 教育計画 について
- II-4. 就職指導・支援計画 について
- II-5. 生涯教育・社会貢献計画 について
- II-6. 学校運営計画 について

I. 学校法人の概要

I-1. 学校法人の基本情報 について

■ 学校法人の基本情報 について

| | |
|------|------------------------------------|
| 設置者名 | 学校法人シモゾノ学園 |
| 理事長名 | 下 蘭 恵子 |
| 所在地 | 〒154-0011 東京都世田谷区上馬4-3-2 |
| 連絡先 | 電話番号：03-5430-4400 FAX：03-5430-4448 |
| 認可日 | 1997年(平成9年)1月27日 |

I-2. 教育理念・教育方針・3つのポリシー（目標 及び 計画）について

■ 教育理念

- 「心を大切に 感謝の気持ちで自然を思い 人と動物の真の共存共生」

■ 教育方針

- 「専門性の追求」、「道徳性・人間性の育成」、「動物福祉の実践」

■ 3つのポリシー

| |
|---|
| Admission Polisy (アドミッションポリシー) 【 入学者の受入れや入学者に求める資質についての基本的な方針 】 |
| <ul style="list-style-type: none">□ 本校が求める 基礎学力 と 倫理観 を備える者。□ 将来の職業として、動物関連分野に強い関心と熱意のある者。□ 動物愛護 と 動物福祉 の精神に深い理解を持つ者。 |

| |
|---|
| Curriculum Polisy (カリキュラムポリシー) 【 教育目標に対する、教育課程や教育方法についての基本的な方針 】 |
| <ul style="list-style-type: none">□ 学生が専門的な知識や技術に加え、豊かな人間力・適切な社会人力・多様な資質 を身に付け、社会・企業等から高い評価が得られる人財となれるように、教育目的である育成人財像を掲げる。□ 教育目的である育成人財像を基に、教育目標を「専門性の追求、道徳性・人間性の育成、動物福祉の実践」の3つに区分け、適切な 教育課程（学内授業・学内外研修・企業連携実習 等）と 教育方法 にて「学生の立場に立った教育」及び「できないことを学生のせいにはしない教育」を行う。□ 学生が教育目標を達成できるように、PDCAサイクル 等を用いて、定期的な学習成果の検証 及び 必要に応じた改善 を行う。 |

| |
|--|
| Diploma Polisy (ディプロマポリシー) 【 卒業認定や学位授与についての基本的な方針 】 |
| <ul style="list-style-type: none">□ 人生を生き抜く多様な力 と 自分と周りの命（人生）を大切にする心 を持ち、心豊かに生きて生きる資質を持つ者。□ 人と動物の真の共存共生について、自身の考えを持つとともに他者の多様な考えにも理解を示せる者であり、主体的・積極的に取り組み続けられる者。□ 本校に所定の修業年限以上在学し、所定の 授業科目 及び 授業時数 を履修した者について、校長は校長会議の議を経て卒業を認定し、学位を授与する。また、履修の認定について、試験 等の成績に基づいた厳格な成績評価を行い、校長は校長会議の議を経て、これを認定する。 |

I-3. 学校法人シモゾノ学園 及び 本学園に関わる事項の沿革 について

- 1956年 東京都港区青山に、当時、日本にいなかった純血種の犬の取り扱いと日本初のペットホテルを併設した、「青山ケンネル」を創業。
創業者 吉澤 銀三・吉澤 英生。
- 1982年 10月 「青山ケンネル」を株式会社へと法人化。
創立者 下藺 龍二。
- 1984年 4月 動物分野の職業社会人を育成すべく、「青山ケンネルカレッジ」を創立。
創立者・初代 学院長 下藺 龍二。
- 1997年 4月 動物分野を主とする、社会・企業等から高い評価が得られる職業社会人を育成すべく、「学校法人シモゾノ学園 国際動物専門」を創立。
(設置学科:動物看護学科・美容看護学科・動物マネジメント学科)
創立者・初代 理事長 下藺 龍二。
初代 校長 後藤 直彰。
- 2002年 4月 埼玉県さいたま市大宮区に、「学校法人シモゾノ学園 大宮国際動物専門」を開校。
(設置学科:動物看護学科・愛犬美容学科・動物マネジメント学科・Dogトレーナー学科)
初代 校長 下藺 龍二。
- 2004年 4月 国際動物専門学校に、「ドッグトレーナー学科、動物看護専攻科、美容看護専攻科」を新設。
- 2005年 4月 国際動物専門学校 第2代 校長 本好 茂一 就任。
大宮国際動物専門学校 第2代 校長 菅野 茂 就任。
- 2005年 5月 学校法人シモゾノ学園 第2代 理事長 下藺 恵子 就任。
- 2009年 4月 国際動物専門学校に、「動物看護・理学療法学科」を新設。
国際動物専門学校 第3代 校長 下藺 恵子 就任。
- 2010年 4月 国際動物専門学校に、「動物看護・栄養学科」・「美容・デザイン学科」・「自然環境・動物飼育学科」・「しつけ・トレーニング学科」を新設。
- 2012年 4月 大宮国際動物専門学校に、「動物看護・栄養学科、美容・デザイン学科」を新設。
大宮国際動物専門学校 第3代 校長 下藺 僚章 就任。
- 2014年 4月 国際動物専門学校の「全学科」が、文部科学大臣認定 職業実践専門課程に認定。
大宮国際動物専門学校の「国際海洋・飼育学科、Dogトレーナー学科」が、文部科学大臣認定 職業実践専門課程に認定される。
- 2015年 4月 大宮国際動物専門学校の「動物看護・栄養学科、美容・デザイン学科」が、文部科学大臣認定 職業実践専門課程に認定される。
- 2016年 4月 大宮国際動物専門学校 と さいたま市 が、「動物愛護に係る事業協力に関する協定」を締結。
- 2018年 4月 大宮国際動物専門学校に、「動物看護・エキゾチックペット学科、美容・スモールペット学科」を新設。
- 2021年 4月 愛玩動物看護師法 の成立に伴い、国際動物専門学校の「動物看護・理学療法学科」を「愛玩動物看護学科」に名称変更。
愛玩動物看護師法 の成立に伴い、大宮国際動物専門学校の「動物看護・栄養学科」を「愛玩動物看護学科」に名称変更。
- 2022年 4月 両校の愛玩動物看護学科が、愛玩動物看護師法 第31条 に基づく 愛玩動物看護師養成所に、2022年4月1日付けにて指定される。(東京都:2022年9月)(埼玉県:2023年1月)
- 両校の動物看護系学科 2012年度生から2021年度生 が、愛玩動物看護師法 附則第2条 第2号 ハ及びニ に基づく 愛玩動物看護師養成所 に、2022年4月付けにて指定される。

I-4. 本学園が設置する学校・学科（学校基本情報）について

■ 国際動物専門学校 の学校基本情報 について

| | |
|------|------------------------------------|
| 設置者名 | 学校法人シモゾノ学園 |
| 理事長名 | 下 藺 恵子 |
| 学校名 | 国際動物専門学校 |
| 校長名 | 下 藺 恵子 |
| 所在地 | 〒154-0014 東京都世田谷区新町2-1-5 |
| 連絡先 | 電話番号：03-5430-4400 FAX：03-5430-4448 |
| 認可日 | 1997年(平成9年)1月27日 |

| 課程 | 学科名 | 修業年限 | 募集定員 | 収容定員 | 現 員 |
|-----------------|--------------|------|------|------|------|
| 動物管理専門課程 | 愛玩動物看護学科 | 3年 | 80名 | 240名 | 238名 |
| 動物管理専門課程 | 美容・デザイン学科 | 2年 | 40名 | 80名 | 93名 |
| 動物管理専門課程 | 自然環境・動物飼育学科 | 2年 | 40名 | 80名 | 87名 |
| 動物管理専門課程 | ドッグスペシャリスト学科 | 2年 | 40名 | 80名 | 78名 |
| ※現員は、5月1日現在の人数。 | | | 200名 | 480名 | 496名 |

■ 大宮国際動物専門学校 の学校基本情報 について

| | |
|------|------------------------------------|
| 設置者名 | 学校法人シモゾノ学園 |
| 理事長名 | 下 藺 恵子 |
| 学校名 | 大宮国際動物専門学校 |
| 校長名 | 下 藺 僚章 |
| 所在地 | 〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町2-289-2 |
| 連絡先 | 電話番号：048-648-8400 FAX：048-648-8402 |
| 認可日 | 2002年(平成14年)3月29日 |

| 課程 | 学科名 | 修業年限 | 募集定員 | 収容定員 | 現 員 |
|-----------------|--------------|------|------|------|------|
| 動物管理専門課程 | 愛玩動物看護学科 | 3年 | 40名 | 120名 | 131名 |
| 動物管理専門課程 | 美容・デザイン学科 | 2年 | 40名 | 80名 | 85名 |
| 動物管理専門課程 | 美容・スモールペット学科 | 2年 | 40名 | 80名 | 81名 |
| 動物管理専門課程 | 国際海洋・飼育学科 | 2年 | 40名 | 80名 | 90名 |
| 動物管理専門課程 | ドッグスペシャリスト学科 | 2年 | 40名 | 80名 | 87名 |
| ※現員は、5月1日現在の人数。 | | | 200名 | 440名 | 474名 |

I-5. 役員等について

■ 理事・監事について

定員 理事 5名 監事 2名

| 区 分 | 氏 名 | 選任区分(従前の寄付行為) | 任 期 |
|-------|--------|--------------------------|-------------------------|
| 理 事 長 | 下 藺 恵子 | 第7条 第1項 第1号(国際動物専門学校 校長) | — |
| 理 事 | 田ノ下 利依 | 第7条 第1項 第2号(評議員) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |
| 理 事 | 神里 洋 | 第7条 第1項 第3号(学識経験者)(学外) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |
| 理 事 | 橋本 光央 | 第7条 第1項 第3号(学識経験者)(学外) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |
| 理 事 | 曾田 天宮 | 第7条 第1項 第3号(学識経験者)(学外) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |
| 監 事 | 菅野 茂 | 第8条 第1項(学外) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |
| 監 事 | 小里 佳嵩 | 第8条 第1項(学外) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |

■ 評議員について

定員 評議員 11名

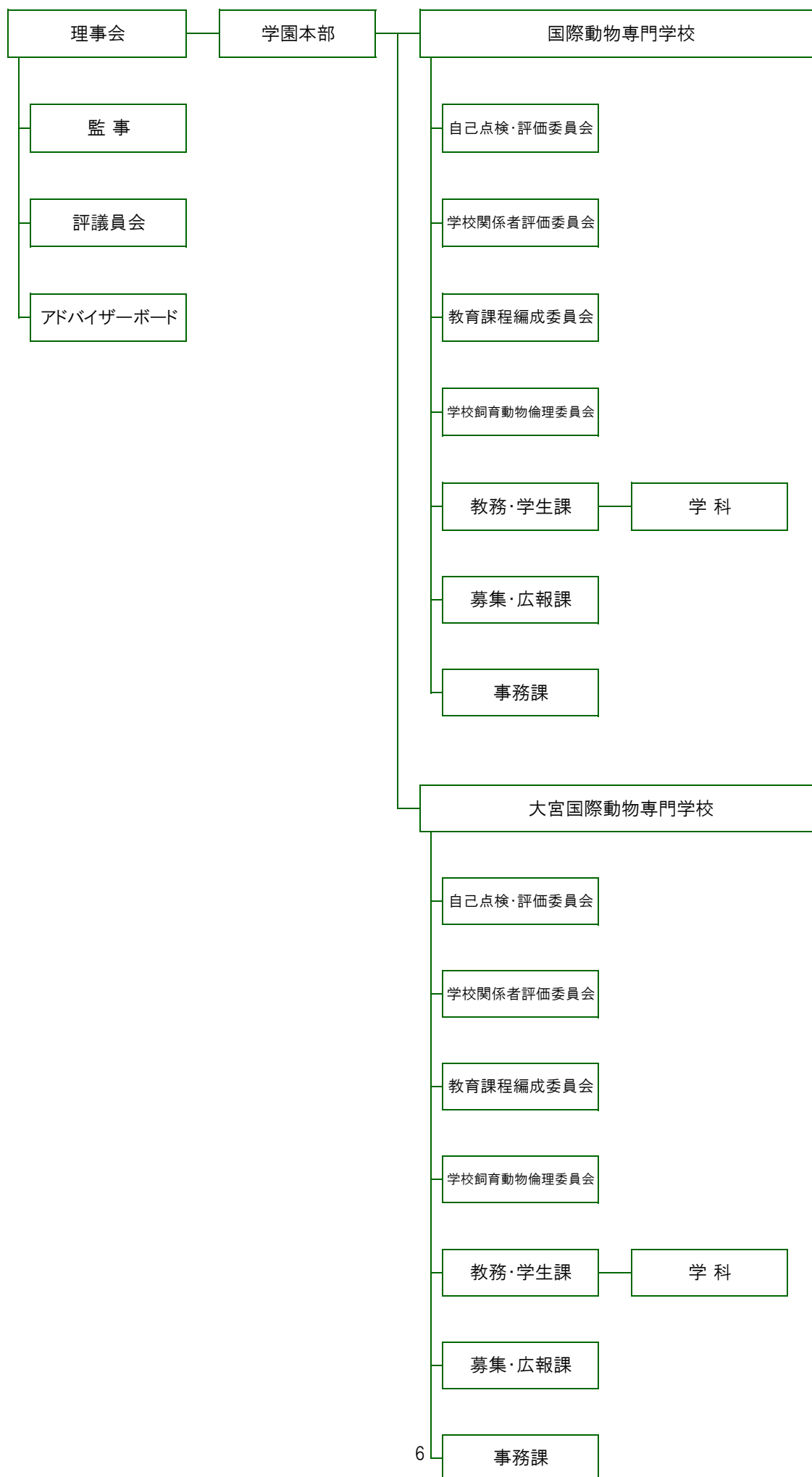
| 区 分 | 氏 名 | 選任区分(従前の寄付行為) | 任 期 |
|-----|--------|-------------------------|-------------------------|
| 評議員 | 下 藺 恵子 | 第28条 第1項 第1号(校長) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |
| 評議員 | 下 藺 僚章 | 第28条 第1項 第1号(校長) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |
| 評議員 | 田ノ下 利依 | 第28条 第1項 第2号(教職員) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |
| 評議員 | 吉川 鉄平 | 第28条 第1項 第2号(教職員) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |
| 評議員 | 小川 大 | 第28条 第1項 第2号(教職員) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |
| 評議員 | 桑名 優一 | 第28条 第1項 第3号(卒業生) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |
| 評議員 | 坂崎 杏奈 | 第28条 第1項 第3号(卒業生) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |
| 評議員 | 吉澤 茂 | 第28条 第1項 第4号(学識経験者)(学外) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |
| 評議員 | 谷崎 政剛 | 第28条 第1項 第4号(学識経験者)(学外) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |
| 評議員 | 荒井 勇輝 | 第28条 第1項 第4号(学識経験者)(学外) | 2023年5月20日 ~ 2025年5月29日 |

I-6. 教職員等について

■ 教職員について

(2024年(令和6年)5月1日 現在)

| 区分 | 専任 | 兼任 | 計 |
|-----------|------|-----|------|
| IAC東京校 教員 | 36名 | 38名 | 74名 |
| IAC東京校 職員 | 18名 | 2名 | 20名 |
| IAC大宮校 教員 | 33名 | 32名 | 65名 |
| IAC大宮校 職員 | 13名 | 2名 | 15名 |
| 計 | 100名 | 74名 | 174名 |



Ⅱ. 事業の概要

Ⅱ-1. 2024年度(令和6年度) 事業概要報告 について

■ 2024年度(令和6年度) 事業概要報告 について

- 2024年度(令和6年度)にて、学校法人シモゾノ学園 国際動物専門学校 は 創立 満27年 を迎え、大宮国際動物専門学校は 創立 満22年 を迎えた。2024年度も学校法人シモゾノ学園の 教育理念「心を大切に 感謝の気持ちで自然を思い 人と動物の真の共存共生」と 教育方針「専門性の追求」・「道徳性・人間性の育成」・「動物福祉の実践」を柱に、3つのポリシー (Admission Polisy・Curriculum Polisy・Diploma Polisy) を明確に示し、教育理念の実現に引き続き取り組むべく、本学園の組織体制・運営の質の向上に取り組むとともに、学生たちの夢の実現 と 主に動物分野の社会・企業等から高い評価が得られる職業社会人の育成 を教職員全員で取り組んだ。

2024年度は、学内授業の質の向上に加え、両校各学科それぞれが社会・企業等から高い評価が得られる職業社会人の育成に向け、育成人財像をもとに新たな学習目標や現在の学生に合わせた教育方法にて主体的かつ積極的な教育活動が行え、本学園の教育の新たな可能性が垣間見える一年であったことは非常に嬉しいことであり、学校生活における学生たちの楽し気な目の輝きは大変に喜ばしいものであった。また、社会貢献活動においても、各校のどうぶつ祭りに学校近隣の方々が非常に多くご参加いただいたことや限られた機会ではあるが学外団体等が主催する各種イベント等にて本学園の学生がお役に立てたことは、それらのイベント関係者・参加者へのよい影響だけではなく学生自身の大きな成長につながったと振り返る。さらに、学友会と共同して年次大会を開催し、ゴルゴ松本氏による「命の授業」をとおり、多様な生き方が認められる世の中において、逆に生き方に悩むこともある学生や卒業生の一助となる活動が行えた。そのような様々な取り組みの中で、2024年度の卒業式も両校合同にて挙行し、厳かかつ心の温かさを感じる式典は卒業生やその保護者等にとって人生のよき思い出の1つとなっていたのではないかと思慮する。

これらの様々な活動は、主に動物分野を主とする社会・企業等が求めるコミュニケーション力や主体性などの醸造に効果が大きく、「学生の学習成果の質の向上」にその労を顧みずに取り組み続ける教職員の想いと行動の賜物であり、また、本学園を支えてくださる皆さまのお力添えがあつてのことと、改めて心から感謝の気持ちをお贈りしたい。

2024年度の事業基幹計画にて、本学園の運営目的を「社会・企業等から高い評価が得られる職業社会人の育成を通じ、人と動物の真の共存共生に寄与する」とし、運営目標を「経営と教育の質の最大化」とした。この目的と目標を達成すべく、本学園が取り組むべき事項を「学生を集める(学生募集計画)」・「学生を教え育む(教育計画)」・「学生と社会をつなぐ(就職指導・支援計画)」・「卒業後の学生を磨くことと地域・社会への貢献(生涯教育・社会貢献計画)」・「学校運営(財務計画、学校運営計画)」の5つの事業計画で構成し、それぞれの目的と目標が効率的・効果的に達成できるように、組織分掌 及び 役割分担・業務分担 を行い、それぞれの事業計画を推進させ、実りのある成果を収めることができた。

そのような中で、学生募集計画においては、本学園のことを知っていただく取り組みの積み重ねとオープンキャンパスにご参加いただいた方の満足度の向上に全教職員と学校飼育動物たちが心を1つに取り組み、結果としては、両校ともに定員を満たす合格判定を出すことができ、国際動物専門学校は 206名 の新入生を迎え、大宮国際動物専門学校は 222名 の新入生を迎えることができた。

教育計画においては、学生の立場に立った教育・指導を常に考え、学生の学習成果の質をより良くできるように教職員全員が知恵工夫を積み重ねながら教育活動に取り組んだ。本年度の卒業式の様子からも、学生が楽しみながら学びを深め、多様な学習成果を身に付けるとともに、取得目標である資格を取得することができた。

就職指導・支援計画においては、多様なライフプランを持つ学生に対し、就職活動の取り組みを始める時期を早めることで自身が納得する就職先から内定が得られるように取り組みを行い、一定の成果が見受けられた。専門学校として就職率等は非常に重要な要素であり、夢を持って入学をする者の想いを形にする1つである本内容については今後さらに注力して取り組む。

最後に、愛玩動物看護師法が2022年5月1日に本施行となり、2025年2月に 第3回 愛玩動物看護師国家試験 が実施された。その結果、IAC東京校は、受験者74名中74名が合格し、合格率は100%であった。また、IAC大宮校は、受験者42名中41名が合格し、合格率は97.6%であった。受験者全員が合格できなかったことは猛省するところではあるが、その合格率は全国平均の88.0%を上回る合格率であったことは、学生が本学園にて積み重ねた努力の賜物であると非常に誇らしく思う。また、その他の学科の学生も取得目標としている資格をしっかりと取得できており、本学園の教育の質の向上についての取り組みが実りを成している証の1つであると考えられ、2024年度も学生たちの夢の実現と主に動物分野の社会・企業等から高い評価が得られる職業社会人の育成を通じ、「人と動物の真の共存共生」に寄与することができたものと思慮する。これらの成果が収められたのも、本学園をご指導・ご支援して下さる方々のお力添えがあつたからこそのものであり、重ねて心から感謝の気持ちを申し上げる。

Ⅱ-2. 学生募集計画 について

■ 学生募集計画の概要報告 について

■ 学生募集計画の概要報告 について

- 学生募集計画の目的は、本学園の理念を実現すべく、Admission Policy に則した入学志願者 及び各校各学科の定員を満たす願書数 を獲得することであり、その目標の1つである入学者数については、両校ともに入学定員を満たす学生数を獲得することができた。
主には、OC来校者数を増やすべく学校HPやSNSの内容改善・更新回数の増加を行ったが、即時的な成果判断は難しいので継続して取り組むこととする。一方、出願に至るまでの入学希望者へのOCや個別対応については良好であったと振り返る。次年度においても、目的・目標・手段を適切に区分け、目的・目標を確実にかつ効率的に達成できるように手段を検討するとともに、徹底する。

Ⅱ-3. 教育計画 について

■ 教育計画の概要報告 について

■ 教育計画の概要報告 について

- 学生が各学科の定める育成人財像となるべく主体的に楽しく学びを深め、多くの学生が定められた教育目標（知識・技術）を身に付け、社会・企業等から高い評価が得られる職業社会人となれるように進級・卒業をすることができた。また、学生が「人生を生き抜く多様な力」及び「自分と周りの命（人生）を大切にする心」並びに「心豊かに生きて生きる資質」を身に付け、人と動物の真の共存共生に主体的・積極的に取り組み続ける人財となれるように教育を行った。

■ 「両校 愛玩動物看護学科」

■ 概要報告 について

- 育成人財像「動物と飼い主に寄り添うことができる愛玩動物看護師」を目指し、定められた教育目標（知識・技術）を身に付け、社会・企業等から高い評価が得られる職業社会人となれるように教育を行い、多くの学生が進級・卒業をした。また、「動物看護技術力の向上、気付き力の向上、自らを向上させる力の向上」を重点実施項目として定めて教育し、企業連携実習においては「動物外科看護学」に関する教育を行い、それぞれにおいて学生の成長に大きく寄与した。

■ 「両校 美容・デザイン学科」、「IAC大宮校 美容・スモールペット学科」

■ 概要報告 について

- 育成人財像「動物に負担がない生産性の高いグルーミング・トリミングができ、飼い主と動物を笑顔にできる人財」を目指し、定められた教育目標（知識・技術）を身に付け、社会・企業等から高い評価が得られる職業社会人となれるように教育を行い、多くの学生が進級・卒業をした。また、「ステップアップ式美容実習による美容技術力の向上、動物の負担を考慮した美容技術力の向上、接客・接遇力の向上、ウサギの保定技術の向上 及び 生体販売時に対面説明が必要な18項目の説明力の向上（スモペ学科）」を重点実施項目として定めて教育し、企業連携実習においては「接客・接遇、クリーンリネスマネジメント、業界情勢・職務理解の向上」に関する教育を行い、それぞれにおいて学生の成長に大きく寄与した。

■ 「両校 美容実習 モデル犬整備」

■ 概要報告 について

- 美容実習に必要なモデル犬を用意することが主な目的であり、それに加え、多様な犬種のグルーミング・トリミングを学生が学習できるように多くの犬種・頭数を確保することが目標であることに対し、多様な犬種のモデル犬登録数を十分に確保できた。さらに、非常時を想定したモデル犬の整備体制の強化を行い、リスクマネジメントの質を向上に成果を収めた。

■ 「IAC東京校 自然環境・動物飼育学科」

■ 概要報告 について

- 育成人財像「各動物に適した飼育・健康管理をすることができる人財」を目指し、定められた教育目標（知識・技術）を身に付け、社会・企業等から高い評価が得られる職業社会人となるように教育を行い、多くの学生が進級・卒業をした。また、「生き物が生息している自然環境を正しく理解する教育活動、動物の飼育・健康管理における危機管理能力の向上、観察力の向上」を重点実施項目として定めて教育し、企業連携実習においては「産学連携による生き物の飼育・健康管理力の向上等にて、飼育動物の飼育・健康管理や多様な事業所における飼育動物の飼育・健康管理方法」に関する教育を行い、それぞれにおいて学生の成長に大きく寄与した。

■ 「IAC大宮校 国際海洋・飼育学科」

■ 概要報告 について

- 育成人財像「各動物に適した飼育・健康管理をすることができる人財」を目指し、定められた教育目標（知識・技術）を身に付け、社会・企業等から高い評価が得られる職業社会人となるように教育を行い、多くの学生が進級・卒業をした。また、「動物種に応じた調餌技術力の向上、水槽のレイアウト力やコケをつか合ったテラリウム力の向上、コミュニケーション力やプレゼンテーション力の向上」を重点実施項目として定め、学内授業に加え、企業連携実習においても教育を行い、それぞれにおいて学生の成長に大きく寄与した。

■ 「両校 ドッグスペシャリスト学科」

■ 概要報告 について

- 育成人財像「しつけやトレーニングを通し、ヒトとイヌの適切な共生関係を築ける人財」を目指し、定められた教育目標（知識・技術）を身に付け、社会・企業等から高い評価が得られる職業社会人となるように教育を行い、多くの学生が進級・卒業をした。また、「ステップアップ式によるしつけ・トレーニング技術力の向上、他者に正しく分かりやすく伝える力の向上、安全を最優先させたイヌの扱い方」を重点実施項目として定め、学内授業に加え、企業連携実習においても教育を行い、それぞれにおいて学生の成長に大きく寄与した。

■ 「人間力・社会人力養成プログラム 人間力養成講座Ⅰ（HSP）、人間力養成講座Ⅱ（MSP）」

■ 概要報告 について

- 学生が、社会・企業等から信頼され、高い評価が得られる職業社会人となるように、社会人としての品格（法律・道徳・マナー）が身に付き、物おじせずコミュニケーションが取れ、自分の考えを相手に正しく伝えられるように教育を行った。また、「挨拶」についての教育・取り組みを学校全体で行い、学生自身に挨拶の習慣が身に付いたことに加え、学校全体の雰囲気の良い化にも繋がり、学生の学習意欲の向上にも成果がみられた。その結果、多くの学生が社会人として求められる「行動習慣（セブンツール：挨拶・返事・時間管理・情報収集・言動・メモ・感謝）」、「夢や目標に向かってなりたい自分になるための人間力」及び「成果を収める仕事の仕方」を身に付けることができた。

■ 「人間力・社会人力養成プログラム 動物産業経営学（AMP）」

■ 概要報告 について

- 学生が、社会・企業等から高い評価が得られる職業社会人 並びに 動物業界の成長と質の向上に貢献できる人財となるように、動物に関する営利事業・非営利事業を総称する「動物産業」のあらゆる組織・企業 等に通じる、一般教養・仕事の仕方・経営と運営の仕方 等についての教育を行った。その結果、多くの学生が「学生と社会人の立場の違いを正しく理解し、社会・企業等から高い評価が得られる人財としての仕事の仕方」、「動物産業に従事する職業社会人としての基礎知識」及び「マーケティングやマネジメントの基礎知識」を身に付けることができた。

■ 様々な教育活動・教育環境

- 学校行事への取り組み について
 - 教育計画にもとづき、学校全体 及び 各学科 ごとの学校行事を必要に応じて学生と協同して実施し、学習成果の質の向上と学校生活をより有意義なものとするべく取り組んだ。
- 課外活動（ボランティア活動）等の状況 について
 - 就学中の専門的知識・技術等を活かせるボランティア活動等を通し、学習成果の質の向上と学校生活をより有意義なものとするべく取り組んだ。

■ 学生の生活支援

- 学生の生活支援 について
 - クラス担任を中心として複数の教職員とで連携を取りながら学生の立場に立った生活支援を行うとともに、必要に応じて臨床心理士と協働して学生支援を行った。

II-4. 就職指導・支援計画 について

■ 就職指導・支援計画の概要報告 について

- 就職指導・支援計画の概要報告 について
 - 本学園の理念を実現すべく、就職を希望する学生 と 採用を希望する企業等 が効率的・効果的に就職・採用できるように就職指導・支援活動を行った。就職指導・支援活動は、その内容を「就職指導（学生への教育）」・「就職支援（就職・採用活動環境の整備）」・「就職相談（学生の個別対応）」の3つに区分して取り組み、多くの学生が夢の実現の1つである就職内定を得ることができた。今後は、未就職者に対して継続した就職サポートを行うとともに、できる限り卒業時まで全ての就職希望者が就職内定を得られるように取り組みを行う。

■ キャリア教育・実践的職業教育

- キャリア教育への取り組み について
 - 短期的な視点に加え、長期的な視点も含めたライフプランの立案とそれぞれの目的・目標を実現できる多様な能力を学生が身に付けられるように教育を行った。
- 企業等との実践的職業教育 について
 - 教育課程編成委員会を執り行い、頂いたご意見等も利活用し、企業連携研修等の教育を通し、産学連携で次世代を担う人財育成を行った。
- 就職支援・指導への取り組み について
 - 学生が長期的視点にもとづくライフプランが立案できることに加え、採用する側の立場に立った就職活動を実践できるように教育を行うとともに、全教職員が連携して様々な就職支援を行った。

II-5. 生涯教育・社会貢献計画 について

■ 生涯教育・社会貢献計画の概要報告 について

- 生涯教育・社会貢献計画の概要報告 について
 - 本学園の理念を実現すべく、卒業後の学生 や 学校周辺の地域の方 の人生がより輝かしいものとなるように知識・技術を磨く生涯教育活動 や 学校資源を活用した社会貢献活動 に取り組んだ。専門学校として教育活動が主であるので活動範囲に限りはあるが、取り組むことができた内容については事後のアンケートでも満足度の高い取り組みが行え、一定の成果が収められた。

Ⅱ-6. 学校運営計画 について

■ 学校運営計画の概要報告 について

■ 学校運営計画の概要報告 について

- 本学園の理念を実現すべく、法令遵守のもと、学校を適切に運営するとともに、自己点検・評価委員会及び学校関係者評価委員会並びに教育課程編成委員会を執り行い、その結果も踏まえた様々な改善活動を行い、学校運営の質の向上を行った。また、高等教育における就学支援新制度の機関認定を東京都と埼玉県より継続して受けるとともに、愛玩動物看護師の養成所の継続指定も円滑に受けられることができ、今後の学校運営をより盤石に行えるよう取り組めた。次年度以降も、国や関連団体などが推進する様々な取り組みの情報を収集し、引き続き、適切かつ盤石な学校運営が行えるように取り組む。
- 本学園の業務の適正を確保するための体制の整備及び運用の質を向上すべく、理事の職務の執行に係る情報の管理体制づくり、理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制づくり、教職員の職務の執行が法令及び寄附行為に適合することを確保するための体制づくり、監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制づくり、損失の危機の管理に関する体制づくりとそれらの運用について、それぞれの取り組みを良化させる。

■ 学生納付金・就学支援

■ 学生納付金 について

- 就学に際し必要とする授業料等の納付すべき金額は入学前に募集要項にて明確に提示し、大きな社会的・経済的状況の変化がなかったので事前に提示している金額以外の徴収は行わなかった。

■ 就学支援 について

- 本校は2学期制で、授業料等の納付は各学期の始まる前に納付することになっているが、家庭の様々な事情を勘案し、その納付を分納できる制度を設けた。また、公的な奨学金等に加え、本校独自の奨学金制度や特待生制度を設け、経済的に困難な状況でありながらも学習意欲及び学習成果の高い学生を支援した。

■ 学校評価、その他

■ 学校評価 について

- 教育と学校運営の質の向上を図るべく、自己点検・評価及び学校関係者評価を執り行い、その結果と改善方針についてを学校HPにて情報公開を行った。

■ その他 について

- 学校運営に関するその他の情報については、その情報発信を学校HPにて行った。